



Title	平取町の文化的景観について
Author(s)	田才, 雅彦
Citation	アイヌの伝統を基層にした多文化な景観 : 北海道平取地域の文化的景観に関する論説集, 18-19
Issue Date	2024-03-29
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/92877
Type	report part
File Information	ronshu_biratori (11).pdf



[Instructions for use](#)

平取町の文化的景観について

田才雅彦
文化財サポート 代表

私は個人的に「文化的景観」を「ふるさとの原風景」と捉えています。東京の下町で育った私にとってのそれは、あまり自然との関わりがない、ほとんど寅さん映画の世界でした。そんな私が北海道教育庁の職員として、アイヌ文化に関わる名勝「ピリカノカ」と平取町の重要文化的景観選定に関わる仕事をするようになりました。

文化庁記念物課の井上典子調査官の叱咤激励のもと、地元担当の吉原さんと共に、国有林を管理する森林管理局や河川を管理する北海道の河川課などを駆け巡りながら、アイヌ語地名や伝承が残る景観の重要性や、平取和牛・ニシパの恋人（トマト）といった農産物のブランド化など、発掘調査が専門で、およそ地面の下しか見てこなかった私にとって、新鮮で非常に刺激的な日々が続きました。

そもそも「平取」の地名が「ピラウトウル」（崖の間）であり、そのピラ（崖）こそが祈りの場として大切にされてきたことを知った時、なぜか黄泉比良坂を思い浮かべ、もしかしたらアイヌの伝承は神話に通じるのかも！？などと妄想したことも思い出します。

また、道路中心の生活を送ってきた私にとって、交通路としての川、殊に水面から見上げる視点の重要性を認識したことは、その後のチャシ調査などにも大いに活かされることになりました。

特に「モシリ・エル・ウシ」（山飢饉）と呼ばれる、河川氾濫によるハルニレ林の天然更新が、ササ類の繁茂を抑制し、有用植物を再生させる機能を有し、この地域の人々が、そうした自然現象を有効に活用する術を身に付けていたことには感動しましたし、美しいスズラン畑が、実は牛のおかげで生まれたことなど、多くの学びも得られました。

名勝ピリカノカの指定地にもなった「オキクルミのチャシ及びムイノカ」や「幌尻岳（ポロシリ）、オプシヌプリやウカエロシキなどを舞台とする多様な物語は、地域の特徴を知り尽くし、厳しい自然環境の中からも四季の恵みを存分に得ながら、精一杯生活を楽しんできた人々の心の豊かさを存分に示してくれています。

現在、第四次選定に向けた作業が進められているとのことですが、更に包括的で豊かな文化的景観が形作られ、引き継がれていくよう願っております。

今、道内各地で「文化財保存活用地域計画」の作成が進められ、私も幾つかの協議会委員を務めさせて頂いておりますが、平取町での重要文化的景観選定作業に携われたことが、地域計画作成においても大きな経験値であり財産となっていますので、今後も頂いたその経験を活かし、少しでも各地域のまちづくりに貢献できたらと考えております。



写真1 オキクルミのチャシとムイノカ



写真2 オブシヌブリに落ちる夏至の夕日



写真3 ウカエロシキ